

編纂人 加茂谷安
印刷人 小澤印刷所

學校長メッセーじ

旧制中學校より教育制度れた。
革による新制高への六年
たゆまず勉學にいそし
て來た努力が實を結び、
全課程を終了し、今春
出度卒業する三年生、
四名の第四回卒業式は三
十二日(水)午前九時より
校講堂に於て舉行される
は當日の式順は左の通り
ある。

それに先立ち行われた本
年度受賞者の選定の結果が
の程学校當局より發表さ

心がかつたかと思ふ。不
ましようが、其のいづれに
しまれるにいたしても思
ひます。此處で三十年を
君が過去三十年の間教え
省みそし、將來への構想を

第四回
卒業式

別れ行く卒業生

晴れの受賞者決る

第一、入場
修礼
開式
國歌
卒業證書授與
賞状授與
褒章佩帶
式辭
告辭
祝辭
答辭
唱歌

第四回卒業式順

論
瑩雪の功成りて男を持たないものがほとんど数限りなくある。兎に角本文化部の方へもつと配當金おそれの行爲であること
は論を持たない。従つて御
題目の目的達成をせしめし非常に困難な交の故室の不足は置評別のをまわすべきだ。

その第三に下駄箱の完備、物を教壇へ持ち込まざるを要する。その他の設備の問題である得なくなるわけだが、校肉

とその後を追つて本校へD教室を圖書室として使用している。

は大勢の新入生が人學するしてゐる現状だがあれば、この時期に當り我々在校生圖書の整理はほんら部のは配分の仕方である。運動集會その他でとりあげられも生徒の風紀の面から言つては深く過去一年間を反省し仕事にもホームルームの著部對文化部にその數に於いた問題で生徒間にはいわねば大きな弊害を來してゐると思われ問題をとりあへず職員室の一隅を物置き割合は二對一位の割合にいつた觀念がこびりつけ急急に整頓していただきたい。げ来年度への対策を考慮したとも部屋とも用いてゐる。明らかに不公平であつてみるべきであると考ふる先生科員共に不便を感じてゐる。もちろん運動部の経費がさりとておつぱり出さなければならぬ以上のこととはごく一部

今年度の各部分に文化物理と生物の授業が同教室がそれだからといつて運れた重要課題の一つである我が校がより向上し發展す事は自分達の獨立した部屋であつたのでは設備やその動部の方へ多く懸し文化現在下駄箱に靴下駄を置くことを確信するものであつた。

生徒會長 成田昌一

大塚鉄陽 昌康一 伊藤政太郎、渡部幸四郎 加	雄、工藤茂美、日下部芳
賀谷博次、小貫三郎、田畑久雄 能上正男 小川進、工藤太一郎、成田秀	楡森丈策、鈴木正義、福田昌雄 山内陸郎、田中紀夫、藤原正 成田廣造

諸兄を級生と呼び、又て立つことを、誇りを持つて下級生と呼ばれた。こゝ二年で自覺して生活していつて間、同じく屋根の下にこの學ぶ身となつた吾々入學當初の懇切なる御指導に對しては、吾々は深く感謝するものであります。更に今後とも引續き本校發展のために吾々をなすべく御指導下さらんことをお願いいたします。

諸兄の聲に震へたりと思ひ出、諸兄に動かしられたり又議論し合つたりと思ひ出。學園生活につきない思ひがあまりです。

諸兄去りし後は本校最上級生となつて名譽ある本校の傳統を守り發展させねばならぬ身となる吾々が今こゝに居ても居るに當つては、最後に吾々諸兄の前諭に輝かしい榮光あらんことを祈つてやみません。ではこれより御体にお氣をくれぐれも御休みにあつたけられ、さようなら。

御卒業の喜び

PTA會長 金崎盛徳

第四回 別れ行く卒業生

晴れの受賞者決る

旧制中學校より教育制度れた。
 革に於ては、たゆまず勉學にいとそし、
 來た努力が實を結び、
 今春の全課程を終了し、今年度
 出度ぐ卒業する三年生、
 四名の第四回卒業式は三
 十日(水)午前九時より
 校講堂に於て舉行される
 は當日の式順は左の通り
 ある。
 それに先立ち行われた本
 年度受賞者の選定の結果が
 の程、学校當局より發表さ
 れた。

◆第四回卒業式式順

一、入場
 一、修し
 一、開校の事
 一、卒業證書授與
 一、卒業授與
 一、表彰傳達
 一、式辭
 一、告辭
 一、祝辭
 一、答辭
 一、唱歌

☐ ☐ ☐ ☒ ☐

- 一、卒業生父兄代表謝辞
一、校歌
一、閉式の辞

受賞者一覧

優等賞
渡部信、原田範夫、齋藤登喜男、丹波望、田中克芳

學習賞
井口敏三、長谷晴夫、吉田博、島田賢一、佐藤達雄、松枝賢一、小杉山啓一、島田賢一、小川進、林守野、平野政雄

六ヶ年精勸賞
加賀谷恭一、藤島一郎、堺和民、能上正明、田畑久雄、日沼孝作、太田洋一

七ヶ年精勸賞

ついたり、諸兄の壁聲に震あつた。更に今後も引續き本校發展のために吾々を御指導下さらんことをお願いいたします。

最後は吾々諸兄の前途に輝かしし榮光あらんこと祈つてやませぬ。では新しくも御休にお氣をとけられて、さようなら

無題

この人たれもう卒業生か
今日も一日授業の傍ら記
書を書いた日證明書を
たりして外の光のタビに
来たるにも氣づかずにか
「もうやめようか」と中
先生や吉武先生に聲をか

ついたり、諸兄の壁聲に震あつた。更に今後も引續き本校發展のために吾々を御指導下さらんことをお願いいたします。

最後は吾々諸兄の前途に輝かしし榮光あらんこと祈つてやませぬ。では新しくも御休にお氣をとけられて、さようなら

最高の技術
最新の設備

寫眞は 光陽堂
TEL. 871番(会オイチ)

良書の御選定は當店へ

★新刊書籍多數入荷

★おなじみの

聯東山堂書店

佐藤寫眞館へ

大町電話一三三

◆ 學習參考書

◆ 新刊圖書

◆ 雜 誌

鴻文堂書店